

研究・イノベーション学会 第35回年次学術大会
2020年10月31日（土）オンライン（共催：東京工業大学）
公開企画セッション「紀要の魅力と大学の役割」
共催：紀要編集者ネットワーク

紀要の再発見



天野絵里子
京都大学学術研究支援室（KURA）
リサーチアドミニストレーター
博士（技術経営）
<https://researchmap.jp/amanoeriko/>
ORCID: 0000-0001-6234-152X

自己紹介

リサーチ・アドミニストレーター（URA）

- 研究支援の専門職
- 学内ファンド、URAの研修プログラム、人文・社会科学系研究の支援
- オープンサイエンスの推進

元・ライブラリアン

- 京都大学、九州大学、国際日本文化研究センター
- 資料と人をつなぐ専門職
- オープンアクセスの推進

研究成果の
効果的な発信

×

オープンアクセス
オープンサイエンス

紀要に対するネガティブなイメージ

- 正直、紀要は図書館員泣かせでした。
 - 寄贈してくれるのはありがたいが場所をとる
 - 製本しないと自立しないが製本のお金がない
 - ネットで読めるものが多くなったので、捨てられがち
 - 論文を連載できる。そして未完に終わるものがある
 - たまにバズる、とほほな論文。質はどうなの・・・？



一方で、ジャーナルをめぐる問題

● 学術出版を出版社まかせにした結果…

- 購読価格の高騰
 - 大手出版社の寡占、投稿料（APC）との二重取り
 - 契約の最適解を求めて国・研究機関と出版社が模索
 - 著者は世界に発信しているつもりでも、購読料が壁となり読めていない研究者が数多くいる
- ハゲタカジャーナルの出現
 - 査読システムの危機
 - いまやハゲタカとは呼ばれない大手出版社も根は変わらない
「ある顧客から受け取った「原材料(論文)」を他の顧客(査読者)に品質管理させ、チェックが済んだ商品(論文が掲載された科学誌)を、顧客たち(世界中の科学者)に売りつける」[メディア王ロバート・マクスウェルが「科学」から巨万の富を搾り取る科学出版システムを作った方法とは？](#), GIGAZINE, 2017.
 - 著作権をtransferしなければならないなんて本来ありえない

大学は自らの成果発信の価値と受け手と質をコントロールできていない

一方で、研究者の成果発信をめぐる問題

● 研究はもっと多様

- 学際的、あるいはまったく新しい新分野の成果の発表には既存のジャーナルは不向きなことも

● ランキング偏重

- ランキング指標の算出元となっているデータベースがそもそも日本の研究成果のカバーしきれていないにも関わらず、「研究力の低下」「論文数の減少」と言い切れるか？

大学は研究の多様性を把握し、サポートできているか？

変化の兆し

● 研究評価をめぐるトレンドの変化

- 量的評価から質的评价へ
 - DORA、ライデン声明
- 中国の政策転換はインパクト大か？
 - 海外のトップジャーナル偏重から国内雑誌へ？
- 研究の言語等の多様性に注目が集まる
 - Bibliodiversity

● オープンサイエンス

- 研究機関も個人も、成果のオープン化が評価される

大学が自らコントロールできるメディアで
オープンに成果を発信しては？

・・・あ、そういえば紀要があった！

紀要の価値の再発見

見直される紀要の価値

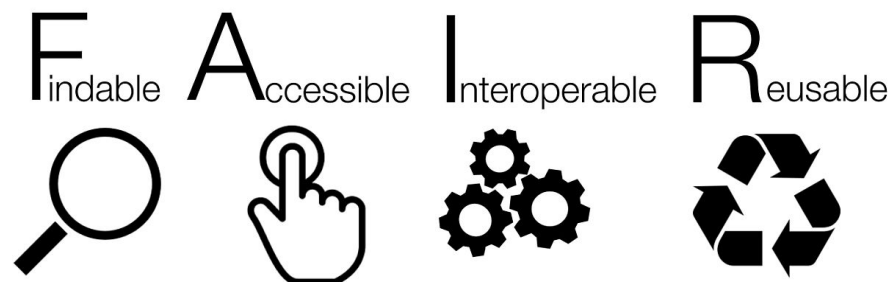
- 多様な研究に対応できる
 - ・ 投稿の形式を自由に設定できる
- 成果物を守ることができる
 - ・ 著作権が学外に流出しない
- 質をコントロールできる
- 容易に世界へ成果を発信できる
 - ・ ITの発展のおかげで、ウェブでの発信をうまくやればトップジャーナルにも引けを取らないビジビリティが得られる

紀要の価値をあらためて発見し、
研究力の強化に生かすことができるのでは？

ただし既存の紀要の出版に課題はある

効果的な成果発信の基本的な考え方

Open Access



SangyaPundir. <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=53414062>
バイオサイエンスデータベースセンター. データ共有の基準としてのFAIR原則. 2018.
doi:10.18908/a.2018041901 <https://biosciencedbc.jp/about-us/report/fair-principle/>

オープンアクセス

- インターネット上で論文全文を公開し、無料で自由にアクセスできること

国立大学図書館協会「オープンアクセスに関する声明」 2009. 文部科学省ウェブサイトより
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1283016.htm

- 「オープンアクセス」とは、それらの文献が、公衆に開かれたインターネット上において無料で利用可能であり、

閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、論文フルテキストへのリンク、インデクシングのためのクローリング、ソフトウェアヘデータとして取り込み、その他合法的目的のための利用が、インターネット自体へのアクセスと不可分の障壁以外の、財政的、法的また技術的障壁なしに、誰にでも許可されることを意味する。

複製と配布に対する唯一の制約、すなわち著作権が持つ唯一の役割は、著者に対して、その著作の同一性保持に対するコントロールと、寄与の事実への承認と引用とが正当になされる権利とを与えることであるべきである。

BOAI, 2002. cited by BOAI 「ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティヴから10年」 日本語訳, 2012.
<https://www.budapestopenaccessinitiative.org/boai-10-translations/japanese-translation-1>

元々は「研究データ」に対する原則。紀要に当てはめると…

<u>F</u> indable	見つけられるために	- 論文にDOIがあること - 主要な検索サービスで検索されるようにすること <u>DOAJなど信頼のおける索引サービスに登録すること</u>
<u>A</u> ccessible	アクセスされるために	- 本文が即時にインターネット上に公開されていること - 書誌事項が完備し利用可能であること <u>本文が機関等の運営する永続的なリポジトリにあること</u>
<u>I</u> nteroperable	相互運用できるように	- 書誌事項が機械可読であること - できれば、参考・引用文献のデータも機械可読な形式で提供されること
<u>R</u> e-usable	再利用できるように	<u>本文とともに再利用可能なライセンスを明示すること</u>

紀要プラットフォームとしての

機関リポジトリの紹介

機関リポジトリの紹介



- 2006年公開
- 収録論文 約20万件
- ダウンロード数 780万件以上 (2019年度)
- 研究成果としてプレスリリースされた論文をいち早く収録
- 世界リポジトリランキング **3位** (Sep 2020)
TRANSPARENT RANKING: Institutional Repositories by Google Scholar
- 2019年の指針改定で研究成果の「根拠データ」を収録開始

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp>

機関リポジトリ：ジャーナルプラットフォームとして



生存圏研究所



生存圏研究



Sustainable
humankind : bulletin
of Research Institute for
Sustainable



木材研究・資料



木材研究資料



Wood research : bulletin
of the Wood Research
Institute Kyoto University



木材研究：京都大学木材研
究所報告

- 紀要の登録を推進

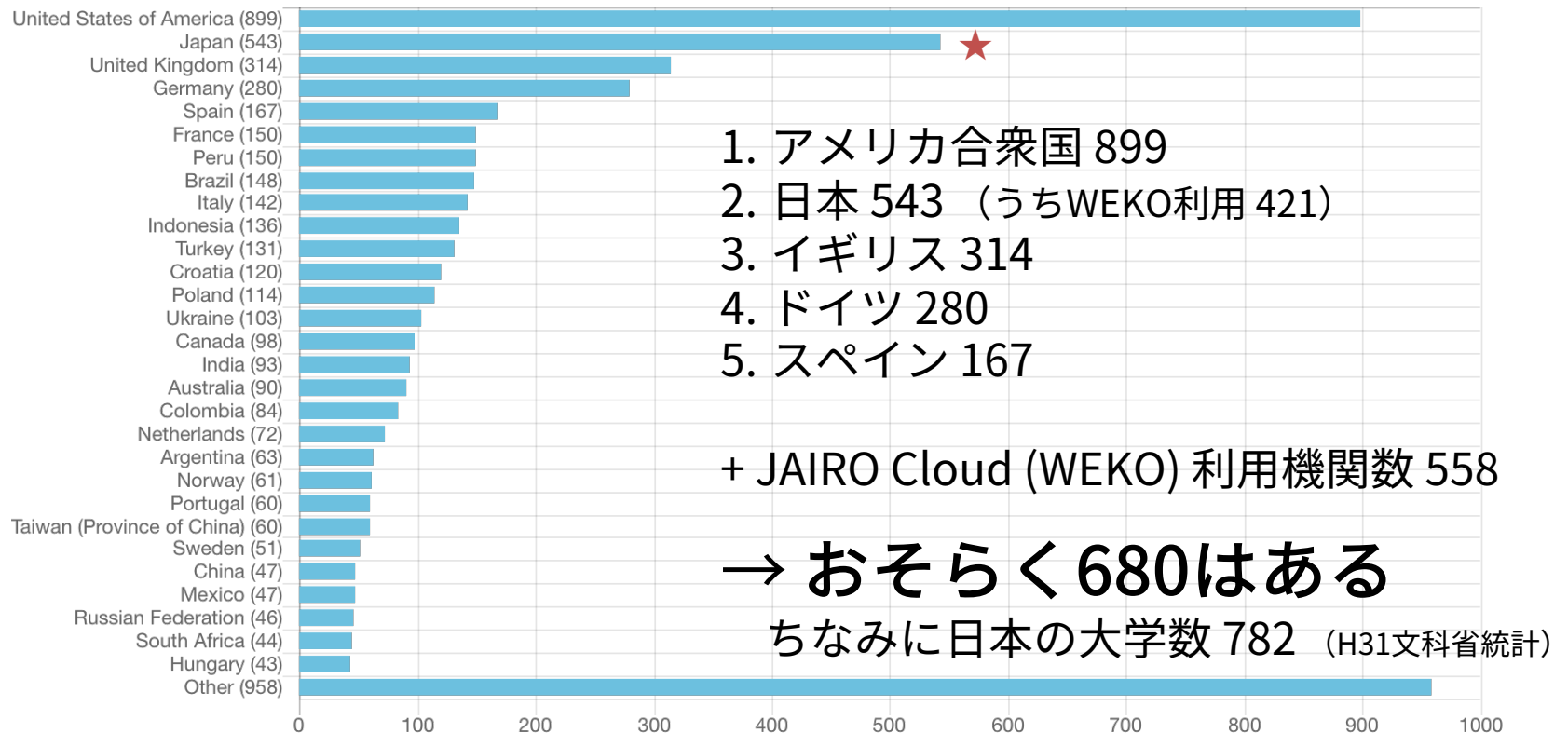
筑木 一郎「図書館は出版社になる：電子ジャーナル出版支援および大学広報としての京都大学学術情報リポジトリ事業」大学図書館研究 85, pp. 63-73, 2009.

- 紀要約260誌を収録

- 論文のタイトルや概要（アブストラクト）の英文化
- 紙媒体がなく、KURENAIが事実上の唯一の提供形態となっている紀要も

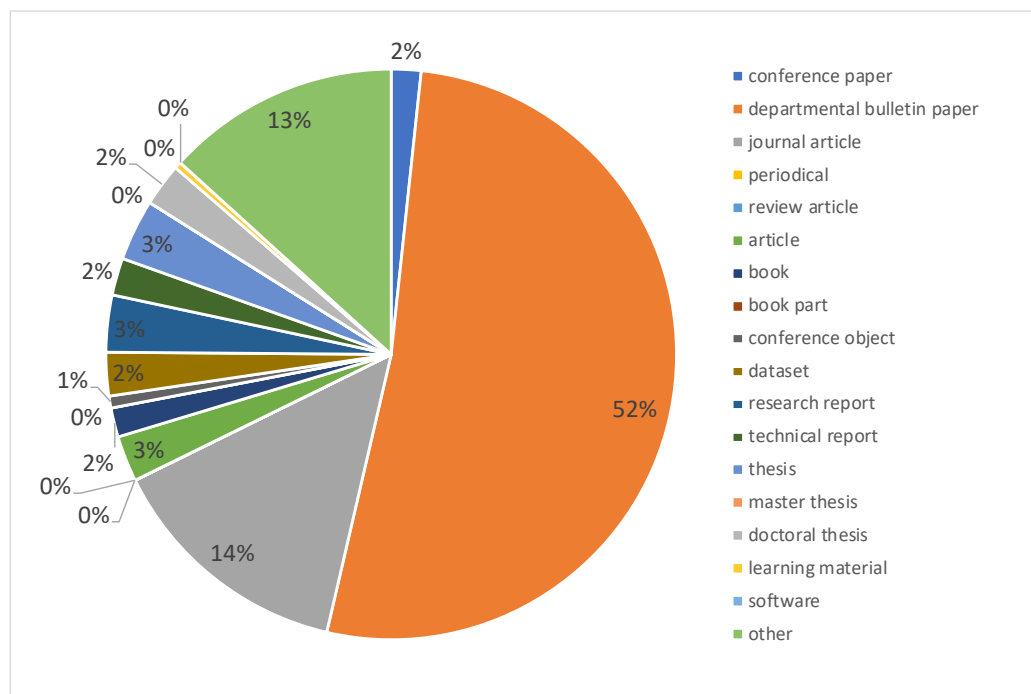
[研究者からの声](#)

機関リポジトリ：日本は世界第2位の数



OpenDOAR statistics https://v2.sherpa.ac.uk/view/repository_visualisations/1.html accessed 2020.2.17

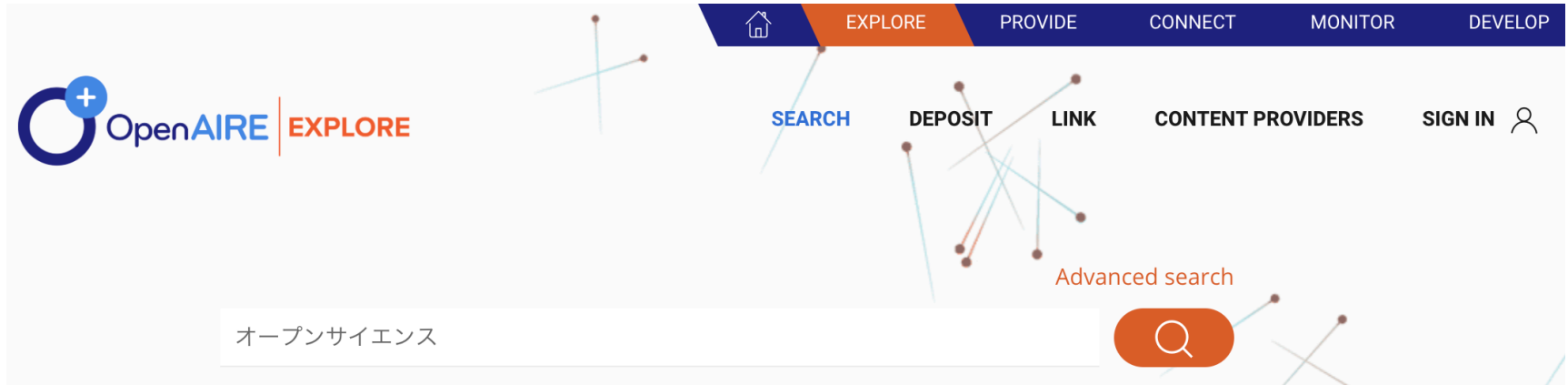
機関リポジトリ：収録コンテンツは紀要論文が半分



2,356,701件

学術機関リポジトリデータベース（IRDB）統計より作成

機関リポジトリ：Interoperableなので世界から検索可能



Content Provider

Europe PubMed Ce...
(5,794,862)
Unknown Repository
(5,472,960)
★ JAIRO (1,952,210)
Hyper Article en... (1,902,720)
LReferencia - R... (1,808,341)
[View more](#)

Language

English (17,912,992)
Russian (1,814,865)
French (1,754,395)
Portuguese (1,594,607)
★ Japanese (1,500,735)
[View more](#)

- 多様な研究に対応できる
 - ・ 投稿の形式を自由に設定できる
- 成果物を守ることができる
 - ・ 著作権が学外に流出しない
- 質をコントロールできる
- 容易に世界へ成果を発信できる
 - ・ ITの発展のおかげで、ウェブでの発信をうまくやればトップジャーナルにも引けを取らないビジビリティが得られる

紀要の価値をあらためて発見し、
研究力の強化に生かすことができるのでは？

研究力強化のために、紀要は使える

残る課題は…

- 大学によるサポート
 - ・ブランディング
 - ・ポリシー
- 紀要の刷新
 - ・ 紀要単位の情報の提供
 - ・ スコープ、編集委員、投稿規定、査読プロセスなどの明示
 - ・ フリーでなくて、オープンアクセス
 - ・ “即時”OA
 - ・ 再利用のためのライセンスの明示
 - ・ 将来的には翻訳機能など
- 必要なリソース
 - ・ 編集委員会、査読者
 - ・ 編集、技術の専門人材の確保と育成
 - ・ 紀要を形にする人への正当な評価